

多くの出会いに恵まれて

私は2010年の4月から、「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラムのテニュアトラック講師として本学に着任しました。非常にやりがいのある環境を与えて頂き、毎日が充実して楽しくもあります。私生活では、2人の子どもを抱える母であり、仕事も私事も、常にあれもこれもやり残した焦燥感にかられる毎日でもあります。

女性が社会に出るに際して最も悩む問題は、結婚や出産などのライフイベントと自分のキャリアバランスをどう描いていくかではないでしょうか。かくいう私も子どもをいつ産んだらよいのか？ 研究にプランクができては、次のポジションが見つかるのか？ どういう選択をすればベスト

なのか？ と、常に悩み続けていました。今でも手探り状態で、何が正解かはいつまでたってもわかりません。

しかしながら、ひとつ確信を持って言えるのは、とりたてて優秀でもない私が、なんとか今まで研究を続けてこられたのは、思ってもいなかったような「人」や「機会」との出会いに恵まれたからであるということです。その時は、嫌な出会いであっても、今になって振り返ると人生のターニングポイントとなる重要な出会いであったような場合もありました。これまでの縁に感謝しつつ、現在の自分の状況を受け入れて、いつか「素晴らしい研究成果」と出会えるようベストを尽くす事が、私の責務ではないかと思っています。

小菅 厚子 ●大阪府立大学21世紀科学研究機構  
ナノ科学・材料研究センター テニュアトラック講師



若い大学生の皆さんにも、これから思っていないような素晴らしい出会いが待っているはず。『就職難』や『ポストク問題』、世間では厳しい言葉も聞かれます。こういった言葉に臆するのではなく、今自分にできるベストを尽くし、素晴らしい出会いが舞い込んでくるのを待っているのも、楽しいのではないのでしょうか？

女性研究者支援センターの相談窓口

大阪府立大学の女性教職員および女子学生を対象に、2つの相談窓口を開設しています。

支援センター相談

研究を続けていく上で困ったこと、悩んでいることについて、支援センターのコーディネーターが、あなたに必要な支援や情報を一緒にお探します。

女性の健康相談

職場・研究環境と健康に関わる問題について、保健師・助産師がサポートします。

健康相談窓口より

みなさん、こんにちは。「女性の健康相談」を担当している助産師の藤野です。妊娠、出産、育児のことはもちろん、女性特有の病気や心身の不調など、女友達とお喋りするみたいに「ちょっと聞いて聞いて」って感じでなんでも気軽に話せる相談室です。もちろん、秘密厳守ですから、職場などの身近な人には話さないことも安心してご相談ください。

女性のみなさんが働く＆学ぶ環境が少しでも良くなるようにがんばりたいと思っています。ご相談、お待ちしております。

「支援センター相談」と、「女性の健康相談」の個別相談には、予約が必要です。お問い合わせ・ご予約は下記へ。

●E-mail w-support@ao.osakafu-u.ac.jp  
※件名に「健康相談」と入れてください

数字で見る！男女共同参画  
「男1.7%：女85.6%」

育児休業取得率の男女比

厚生労働省「平成21年度雇用均等基本調査」より

育児・介護休業法は平成21年6月に改正され、一部を除き、平成22年6月30日から施行されました。今回の改正の大きなポイントとして「父親も子育てできる働き方の実現」があり、下記の点が改正されました。

- 父母がともに育児休業を取得する場合、1歳2ヶ月（現行1歳）までの間に、1年間の育児休業を取得可能とする（パパ・ママ育休プラス）。
- 父親が出産後8週間以内に育児休業取得した場合、再度、育児休業を取得可能とする。
- 配偶者が専業主婦（夫）であれば育児休業の取得不可とすることができ、制度を廃止する。

これは、共働き世帯が過半数となっている中で、母親だけでなく、父親が育児をすることが必要となっていること、また、男性自身も子育てをしたいという人が増えているのに、長時間労働などで関われない人が多いことを改善するために行われました。

特に、手のかかる乳幼児の頃に育児に関わっているかどうか、その後の夫婦関係や子どもの発達、さらに父親自身の発達にも影響するといわれています。また、育児をすることで身につける、時間管理能力や忍耐強さが仕事にも良い影響を与えたりもされています。

これからは、男女関わりなく育児をすることが、家庭生活のためにももちろん、仕事や研究を続けていくためにも必要ではないのでしょうか？

公立大学法人 大阪府立大学  
女性研究者支援センター

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1  
(中百舌鳥キャンパス)

TEL・FAX (072) 254-9856(内線2758)  
E-mail w-support@ao.osakafu-u.ac.jp  
URL http://www.opu-genki.ne.jp



※3月下旬より、右記の新健康センター内に移転します。

NEWS LETTER

No.2 2011.3

文部科学省科学技術振興調整費  
女性研究者支援モデル育成事業

公立大学法人  
大阪府立大学  
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

女性研究者支援センター

元気！ 生き生き  
女性研究者・公立大学モデル

大阪府立大学では、理系の女性研究者・院生・学生のために様々な支援プログラムを実施し、理系女性研究者を増やしていこうというプロジェクト「元気！ 生き生き 女性研究者・公立大学モデル」を行っています。これは、平成22年「科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成）」に、公立大学としては全国で初めて採択された取り組みです。

平成22年11月14日(日) 中百舌鳥キャンパス・学術交流館

キックオフ・シンポジウム開催

昨年11月14日、キックオフ・シンポジウムを開催しました。来賓に大阪府府民文化部 福田昌弘部長、堺市 芳賀俊洋副市長をお迎えし、学内外から93名の参加者があり、地域および本学の女性の活躍に期待する熱い想いを感じることができました。

特別講演として、「女性研究者の現状と大阪府立大学への期待」と題し、文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 板倉周一郎課長に、文部科学省等の今後の取り組みも合わせてお話しいただきました。

来賓をお迎えしてのオープニングの様子



基調講演講師の野崎京子教授(東京大学)

次に、本学の前身である大阪女子大学出身で、愛媛大学女性未来育成センター長・同大学院理工学研究科 小島秀子教授に「未来を担う女性研究者への期待」と題してロールモデルの立場から語っていただきました。

続いて基調講演では、「分子を作る・科学と私」をテーマに、猿橋賞受賞者で、東京大学大学院理工学研究科 野崎京子教授より、ご自身の研究と育児について楽しく講演していただきました。

最後に本学の女性研究者支援事業についての紹介をもって、キックオフ・シンポジウムを終了しました。

女性研究者支援の発展に期待して

公立大学法人 大阪府立大学理事・副学長 安保 正一

本学の「元気！ 生き生き 女性研究者・公立大学モデル」は、平成22年度科学技術振興調整費(平成22～平成24年度)に採択され、理系女性研究者および未来の担い手である女子大学院生を増やすことをミッションとしています。女性研究者支援センター(センター長・田間泰子 人間社会学部教授)を中心にプロジェクトが始動し、平成22年11月14日にはキックオフ・シンポジウムを開催しました(上記参照)。文部科学省科学技術・学術政策局 板倉周一郎基盤政策課長による特別講演、愛媛大学女性未来育成センター長 小島秀子教授(大阪女子大学出身)によるロールモデル講演、また、東京大学大学院理工学研究科 野崎京子教授(猿橋賞受賞者)による基調講演は、いずれも好評を博しました。



私自身の経験に少し触れたいと思います。1985年よりほぼ毎夏、パリ第6大学を中

心にヨーロッパの諸大学で研究する機会をいただいていたのですが、ヨーロッパではその頃も、理系研究者の半数が女性であり、カルチャーショックを受けたものです。内閣府資料にもある通り、わが国における理系女性研究者の比率は、依然として、極めて低いと言わざるを得ません。本学の場合、大学全体での女性研究者の割合は他大学と比較しても低くはありませんが、理系学部では、極めて低い状態にあります。ヨーロッパのような環境を目指すことがベストであるとは限りませんが、教育研究の多様性、また、昨今の女性の目覚ましい活躍を鑑みれば、本事業を通して、理系女性研究者と女子大学院生の増加に寄与することは、本学の発展にも繋がる重要なことと思っております。

女性研究者の勤務環境の改善、子育て支援、ワークライフバランスの浸透など、女性研究者のキャリア継続を支援するシステムの構築を進め、本学の「元気！ 生き生き女性研究者・公立大学モデル」事業が発展することを願っております。

「元気！ 生き生き女性研究者・公立大学モデル」事業をスタートして10ヶ月、その概要と取り組みを紹介します。

**プログラムの目的**

**理系女性研究者の増加**

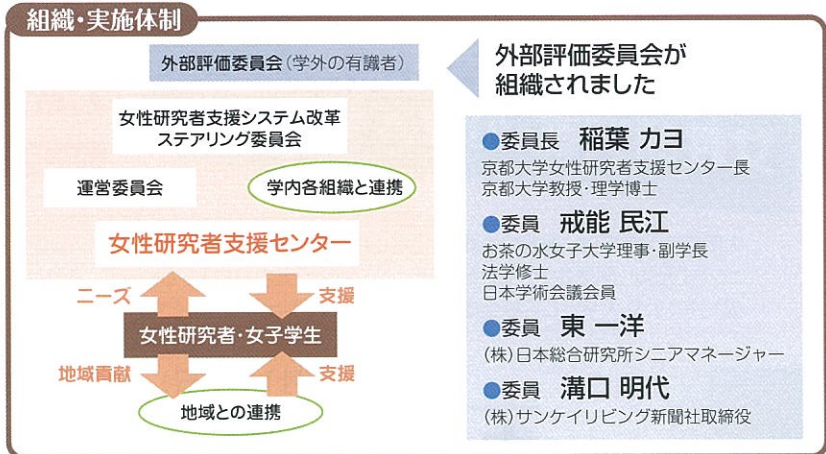
- 事業終了までの3年間で理系女性研究者数を現在の30%アップする。
- 理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。

**環境整備**

- 相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
- 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。

**地域貢献**

- ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。



**1 支援のための環境整備** 推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。

**4月1日、キャンパス内に「つばさ保育園」がオープンします**

保育園の名前は学内で公募し、大阪府立大学事業所内施設開設準備委員会にて審査の結果、「つばさ保育園」に決定しました。4月1日、中百舌鳥キャンパス内にいよいよオープンします!!

**インタビュー** はばたく鳥をイメージして名付けました  
生命環境科学部・生命機能科学科 田辺さん

講義後に配られたチラシで保育園の名称募集を知りました。中百舌鳥キャンパス周辺の地名が中百舌鳥や白鷺なので、鳥をイメージさせるような名前がいいと思い、「つばさ」と名付けました。つばさという言葉には開放的なイメージもありました。大学と保育園という組み合わせに少し驚きましたが、せっかく大学内にあるのでその特質を生かして普通の保育園とはひと味違ったおもしろい保育園になってくれたらいいなと思います。

**募集 オープニングイベント**

本学の「花(さくら)まつり」の時に開催します。

**4/3(日)** 一般の方、本学教職員・学生ほか対象

13:00~14:30 ▶ A5棟 1階 122中講義室

●学内保育園オープニング記念講演会

**女も男も、仕事と子育て！** 参加無料

ーワークライフバランス実現のコツー

講師 ● 上田 理恵子(株式会社マザーネット代表取締役社長)  
中村 喜一郎(本学工学研究科修士、経営・人材コンサルタント、神戸学院大学客員教授)

仕事と子育てのどちらも続けていくために必要な、ワークライフバランスを実現するコツについて、ともに親でもあるお二人に、自身の体験を交えながらお話していただきます。

託児無料 生後2ヶ月~小学校3年生(定員10名)

託児希望の方は3/25(金)までに申し込みください(右下参照)。

**研究支援員を配置しました** 当センターでは、妊娠・出産・育児中の理系女性研究者で、研究時間の確保が困難な方に、研究支援員を派遣し、研究、実験などの補助を行っています。昨年9月より8名の研究支援員を配置しました。

**インタビュー** 研究と育児が両立するようになりました  
理学系研究科助教 吉原 静恵先生

今、子どもは3歳半で、生後5か月の時に復職。子どもの急な発熱時などは保育園が預かってくれないため、研究も止まり、学生への対応もできず不安やストレスがかなりありました。

研究以外にやらねばならない仕事がたくさんある中、研究論文の発表もします。育児中は時間の制約がどうしても付きますが、今は、自分のやりたかった研究テーマの実験を、研究支援員の西塚さんがしてくれているということがとても安心です。研究と育児がなんとか両立するようになりました。特に西塚さんのように(2~3時間とかでなく)朝から夕方までいてくださる支援だと助かります。これからもこの制度を続けてほしいです。

**難しいですが楽しくやりがいがあります**  
研究支援員 西塚さん

研究に携わりたと思っていたことや、出産・育児で思うように仕事ができずにいる友人たちを見て、少しでも手助けができればと思い、研究支援員の仕事に就きました。仕事は難しいのですが、楽しく、やりがいがあります。

→吉原先生より、「西塚さんが難しいところをきちんとしてってくれる方なので任せられるんです」とのコメントもありました。

**女性研究者懇話会が行われました**  
2010/12/3(金)

学内の女性研究者のネットワーク構築の一環として、女性研究者懇話会が立ち上がり(世話人:工学研究科 中川智皓助教)、ランチミーティングが行われました。今後の情報交換のきっかけとなるとともに、職階、年齢をこえた多様なネットワークを作る第一歩となりました。

平成23年度の研究支援員の募集は随時受付しています。ご希望の方は当センターへお問い合わせください。

**募集 第2回女性研究者懇話会**

大阪府立大学の女性研究者が集い、さくばらんに研究や家庭のことなど情報交換をする機会を持ちませんか?

**3/16(水)** 本学に所属する女性の教員・研究員・大学院生対象

12:15~12:50

▶ A1棟 大会議室(東)

申込先 ● 幹事・中川(chihiro@me.osakafu-u.ac.jp)まで

**2 全学的意識改革** 女性研究者が研究を続けていくことへの理解を進めます。

**理系学部・研究科の授業にて支援事業について説明**

2010/10/1(金)~26(火) \* 13回開催

本学の女性研究者支援事業の概要や、学内保育園についての説明を、先生方のご協力により、講義時間中にさせていただきました。男女に関係なく興味深く耳を傾けてくれました。

**子育て応援ピンバッチ・シール・キャンペーン**

子育て応援用 子育て中用

子育て応援ピンバッチとシールを作り、3月に教職員に配布します。これは、男女を問わず、子育て中あるいは子育てを応援しようという教職員が、バッッチやシールを身に着けることで、教職員の個人生活と職務・研究をどちらも大切にしていけるための環境づくりを進めていこうというものです。

**3 キャリアパスの構築と裾野拡大** 女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。

**小学生対象のイベントを開催**

工学部・研究科の女子大学院生および学部生の指導のもと、小学生(保護者も参加可)を対象とした理科工作を行うイベントを開催。本学の学生にプロジェクトを知ってもらうとともに、男女の関係なく理系に興味を持つ子どもを増やし、裾野拡大を図ります。広報にあたっては地域の方々にもご協力いただき、地域との連携を深めることのできる企画となりました。

**子どもサイエンスキャンパス in 白鷺祭**  
「光の不思議！ 作って動かす楽しいソーラーバット」

2010/11/6(土) \* 54名参加

本学大学祭に合わせて実施。本学工学研究科の杉村延弘教授のものづくりのお話の後、太陽電池を使った科学工作キットを組み立てました。小学生38名、保護者16名の定員を上回る参加があり、好評でした。

**募集 子ども企画「おもしろ理科実験」**

本学の「花(さくら)まつり」の時に開催します。科学実験キットを使って、理科のおもしろさを体験してみよう!

**4/3(日)** 小学生(主に低学年)対象

15:00~15:30 ▶ A5棟 103教室

講師 ● 本学の工学研究科・生命環境科学研究科・理学系研究科の女子大学院生

申込先 ● 右下参照

**クリスマス会「おもしろ理科実験」**

2010/12/23(木・祝) \* 50名参加

本学のボランティアセンター主催のクリスマス会にブース参加しました。女子学生の指導のもと、スライム作りや万華鏡作りを50名の小学生に楽しんでもらいました。

**「世界に翔け! 理系女子大学院生」表彰を行いました**

募集: 2010/12/28(火)~2011/1/21(金)

国際的に活躍する若手女性研究者の育成のために、理系女子大学院生を対象に募集・審査を行いました。

**最優秀賞 黒田 桂菜**  
(工学研究科海洋システム工学分野博士後期課程)

夢は世界に翔く女性研究者! このような企画はモチベーションを上げるきっかけになります。普段は学会などに行っても同分野の人としか会えませんが、いろいろな分野の方と会えるのもよいと思いました。

**公開審査と表彰式**  
2011/2/23(水)

4名の候補者の英語によるプレゼンテーションの後、10名の審査員の先生方によって最終審査を行い、受賞者に表彰を行いました。

**優秀賞** 松本 祐依(工学研究科知能情報工学分野博士前期課程)  
川本 乃理子(生命環境科学研究科生命機能化学分野博士前期課程)  
上野 未貴(工学研究科知能情報工学分野博士前期課程)

9月以降に国際学会等で発表予定の方の募集は来年度春に行います。学内お知らせや当センターホームページなどでお知らせします。

**募集 公開セミナー「リケジヨ(理系女子)のお仕事」**

進路を考えているあなたへ先輩の話をきいてみませんか?

**3/19(土)** 理系に関心のある女子中高生と保護者、大学生・院生、一般の方対象

13:00~15:00

▶ A12棟 サイエンス・ホール

講師 ● 松山 文佳(三菱電機情報ネットワーク株式会社 フィールドサービス部関西システム課長)  
東山 香子(株式会社エストラボ代表取締役)  
黒田 桂菜(本学工学研究科海洋システム工学分野博士後期課程)

申込先 ● 右参照

**4 サポート基盤の整備**

学内の各部局との連携・協力体制を強化します。大阪府や堺市をはじめとする地域との連携を深め、地域貢献を図っていきます。

シャープ株式会社の協力により、本学出身の女性研究者で希望した方を、ロールモデル・バンクに登録しました

**イベント申し込み・問い合わせ**

女性研究者支援センターまでTEL、FAX、メールどうぞ

TEL・FAX: (072) 254-9856 (内線2758)  
(受付時間 月~金 10:00~16:00)

E-mail: w-support@ao.osakafu-u.ac.jp